



一宮町長
馬淵 昌也

前回の町長日記で、夜のご飯の量を減らしたことで、減量したことをご報告いたしました。実は、私はご飯が好きで、おいしいおいしいと、たくさん食べていました。健康のために少し控えなければいけなくなつて、とても残念です。

先日、50代の方々と会食する機会があり、その席で聞いてみたところ、皆さん、夜はお米のご飯を食べない、とのことでした。いずれも、太りすぎなど、健康を気遣つてのことだそうで、皆さんそんなのか、と驚きました。

そこで、はた、と思つたことがあります。お米というのは、実は、とびきりおいしいだけでなく、ものすごいエネルギー、栄養の塊なのだ、ということです。恐らく、人間が発見した中で、最もパワフルな食物の一つなのでしょう。歴史的には、人間が毎日全身を使って働いていた時代、お米を食べることは、最強のエネルギー補強法だったと思われまます。だからこそ、歴代の大名の富なども、お米の石高で記されたのでしょうか。

しかし、現在は、科学技術が進んで、人間は、筋骨を働かせて仕事をす

ることが減り、一方では食料事情もよくなつて飽食の時代になってきています。その中で、人間が一日に費やすエネルギーも減り、お米の強力なパワーは、時に強すぎるものになってきたということなのかもしれません。

もしそういうことなら、お米の消費は最近毎年減つているといいますが、それはお米がおいしくないからとか魅力がないからではないことになりました。むしろ、お米がおいしく、パワフルで有ればこそ、食べ過ぎないように、という規制が働いている可能性もあるということになります。

とすると、お米の消費を伸ばす戦略も、考え直してゆかなくてはなりません。お米は、すでにたいへんおいしく、質がよいわけで、逆にその力の強さで国内消費が頭打ちになっているとすれば、やはり、世界全体へと活路を見出すべきなのではないでしょうか。一つの方策として、政府が定額でお米を買い取つて、難民キャンプや災害にあった途上国などに現物支給することは、有効な外交手段となると考えます。ぜひ国や県のリードで、お米の海外への展開をさらに本格化してほしいと思います。